

〔中小企業の目〕（奈良）

私の人生観と企業経営

佐 藤 進
（佐藤薬品工業株式会社）
代表取締役社長



我が社は医薬品の製造販売を志し昭和22年創業、26年に法人化し、一貫して「国民の保健衛生に貢献する」を社是として努力を続けております。現会長が戦後広島県の田舎から奈良県御所市へ移り住み、無一文のなかで創業し非常な苦勞を乗り越えて現在に至っております。

私は広島県の田舎で6人兄弟の3男として生を受けました。父は私が小学4年の時に、母は中学2年の時に亡くなりました。兄弟が多く貧乏でした。現会長が見兼ねて私の妹を養女とし、私は中学1年の2学期より奈良へ引き取ってもらい、20歳の時に養子として籍を入れてもらいました。そんなことで将来は薬剤師になって製薬業を継いで行こうとの想いが出てきました。高校3年の夏休みに目の検査をしてもらったところ、色別障害で薬学系は無理となりました。大学の進学を諦め、翌年（昭和39年）の4月に入社し、製造を担当しながら夜学の短大へ2年間通いました。

当時会社はカプセル剤を手がけ始めた頃で土日はもちろん、昼夜稼働をしても追いつかないくらいの非常に忙しい時期でありました。その後10年間は体力にものを言わせてよく仕事をしたと思います。其の間に人も増え、直接製造に携わらなくて、指示命令管理をしていけばよくなり時間的に余裕も出来てきました。

其の頃（昭和50年）に青年会議所（JC）への入会のお勧めがあり、入会し40歳までの10年間在籍しました。其の10年間は仕事ではなく、いろいろな社会勉強をさせてもらいました。JCを卒業後も同じ調子で社会勉強を続けていたものですから、父（当時社長）から一度会社を離れて苦勞をして来いという事になり、昭和63年6月（43歳の時）に退社し、10年後の平成10年7月に専務として復帰し、平成14年7月より二代目の社長として現在に至っております。

会社を離れた10年間は医薬品の配置販売業（売薬業）の得意づくりから始めました。飛び込みで訪問をしたり、紹介をしてもらったりしてゼロから得意開拓を行い、10年間配置薬販売業の経験を致しました。この10年間は私にとってゼロからの得意開拓、専務から一個人となつての地べたを這うような一兵卒体験等々は非常な人生勉強になりました。

会社はカプセル剤の需要の増加により受託製造業として伸びて参りました。カプセルに詰め

る中身の薬剤の製剤技術の向上、生産能力増大により大手医家向け企業より委託を受けるようになり、カプセル製剤の佐藤、技術の佐藤として認知されるようになりました。

委託が増加すると生産能力を増大させる為に建物を建て、製造設備を増設し、人を増やす、この繰り返しの中で現在500人の社員を要してカプセル剤はもちろんですが錠剤の製造能力の向上にも力を入れ、カプセル剤、錠剤、顆粒剤の生産能力、品質管理能力等が委託先の要望に応えられる力を維持できる規模になってきました。

創業者は昭和26年設立から51年（81歳まで）間社長を務め、私は平成14年7月（57歳の時）に二代目として社長になりました。社長になり想った事は、①創業者の考えを数年間は踏襲する。其の為に報告・連絡・相談を徹底する。②社是を企業理念と捉えて社員にも理解してもらい、私は肚に入れ実現を目指す（社是：・我が社は事業を通じ国民の保健衛生に貢献する。・我が社は全員が聖人の教えを学び立派な人格品性をつくり真の幸福を実現する。・我が社は幸福な社員の集団化を図り、持って社会の善導に努める。）。③自己資本比率を10年後に50%以上にする。④より良い物をより早くより安く真心を込めて供給し続けられる信頼される物づくり工場を目指す。⑤内服固形剤に特化した工場を目指す。このようなことを社長になっての誓いとして努力をしてきました。

また、当社は昭和29年頃より現会長がモラロジーの教えを研究し始めて、それを人生観の中に「途中困難最後必勝」を取り入れたり、社員教育に取り入れたり、自らその内容の実行に取り組んでいます。モラロジーとは、公益財団法人モラロジー研究所が説く、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした総合人間学です。3つの心（感謝の心、思いやりの心、自立の心）を育て、人間一人ひとりの品性を向上させ、人類の安心・幸福と世界の平和の実現を目指す教えです。私も社員と一緒に研究会や合宿制の講座を受講したりしました。そして会社で家庭で其の教えである道德の実行に努力しているところであります。平成10年7月に会社に復帰して、社是の実現の為にこのモラロジーの教えを社員教育に、企業の永続発展の為に、取り入れているところであります。

経営者の大きな業務は、①人づくり（後継者づくり）、②企業を永続発展させ、社員の幸せを実現する（倒産しない）、③事業を通じて国家に貢献できる企業づくり（先ず税金を納められる企業、地域に貢献できる企業）、であると思います。私も早や69歳です。長命を期して、製薬業を通じて国家社会に貢献できる企業体であり続けたい。後継者を早く育てたい。モラロジーの教えに基づく「道德経済一体思想」に基づいた経営を目指したい。規模の大きさを追求するより質を追求し高めたい。そして社員の幸福実現を目指す。との想いでこれまでやってきましたし、これからも追いつけて行きます。

最後に、私の好きな言葉を述べます。「物に本末あり、事に終始あり、先後する所を知れば則ち道に近し」「持久微善を積んで撓まず」「微差は大差」。これらの言葉を朝4時半に起きて、日々神仏の前でお誓いをし、出社する毎日です。